



Web3タウン 岩手県紫波町の取り組み

2023年4月



商号 SOKO LIFE TECHNOLOGY 株式会社
(ソコライフテクノロジー)

本店所在地 岩手県紫波郡紫波町

代表者 代表取締役 菅原 壮弘
(スガワラ ソウコウ)

事業内容 Web3 事業、地方創生事業
不動産及び旅行に関する情報サービス事業

資本金 9千4百万円(資本準備金を含む)

許認可 登録旅行業 第3-8043
労働者派遣事業許可 派13-315314
有料職業紹介事業許可 13-コ-312976
古物商許可 第306662016410
(宅地建物取引業 東京都知事(1)105991
SOKO REAL ESTATE 株式会社)

決算期 12月

設立 2018年5月15日

・**1981年10月21日**

岩手県紫波郡紫波町生まれ

・**2000年4月**

横浜国立大学入学。

在学中より株式会社エルテス（2004年創業、2016年上場）の創業支援。

・**2007年～**

大手Sierにてインフラエンジニアとして技術を磨く。官公庁のシステム更改案件 Project Leaderとしてコンサルティング・要件定義などを担当

・**2018年5月**

地方創生を志し、株式会社SS（当社）を創業。

地方自治体に向けて、ブロックチェーンを活用したふるさと納税のコンサルティング企画を準備したが仮想通貨市場の冷え込みにより断念。

・**2019年11月**

SOKO LIFE TECHNOLOGY 株式会社へ社名変更。

地方創生×外国人労働者 を軸にした不動産プラットフォーム事業を開始。

・**2020年9月**

東京日暮里オフィス開設。

・**2021年2月**

「高松市スーパーシティ構想」および「（仮称）南紀スーパーシティ構想」の共同提案事業者に選定

・**2021年9月**

紫波町ガバメントクラウドファンディング活用支援事業において事業者採択

・**2022年6月**

紫波町におけるWeb3タウンの取組推進に関する連携協定締結

・**2022年10月**

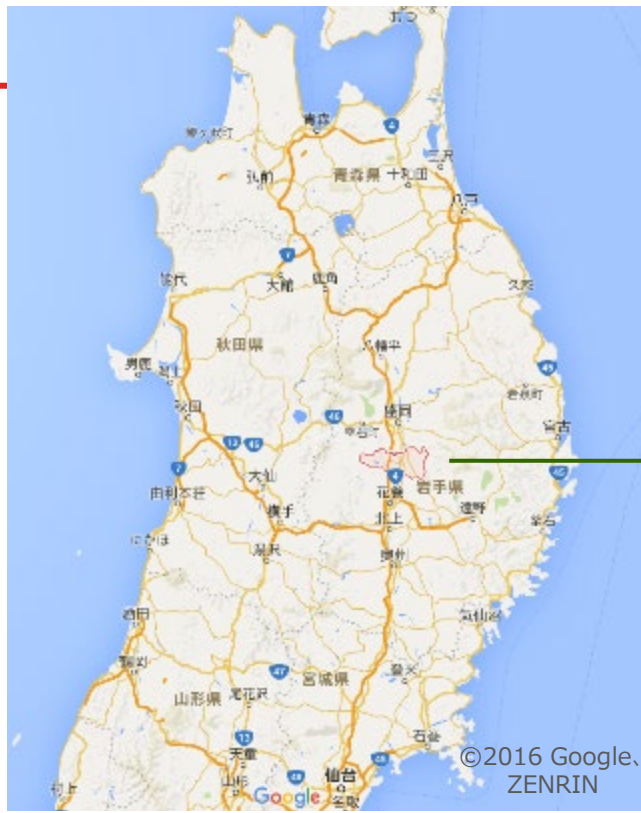
青森市アクセラレータープログラムに採択。ふるさと納税×NFT 事業を推進。

・**2022年11月**

デジタル庁、Web3研究会（第4回）にて、有識者登壇。

岩手県紫波町 (しわちょう)

主な政策 H12～ 循環型まちづくり
 H17～ 協働のまちづくり
 H19～ 公民連携によるまちづくり



人口 33,084人 (R4.9月末)
 高齢化率 31.71%
 世帯数 12,808世帯
 面積 238.98 km²
 歳出決算額 R1:130億円、R3:166億円
 財政力指数 0.47
 実質公債費比率 R1:13.4%、R3:12.9%
 岩手県のほぼ中央
 紫波中央-盛岡間16.7km 21分
 (盛岡のベッドタウン)



南部杜氏発祥の地
地酒4社



フルーツ王国
ぶどうりんごなしも



産直が8か所ある町
地域経営



もち米



南部小麦



そば

岩手県紫波町「Web3タウン表明」および、弊社連携協定

地域創生におけるモデルプロジェクトとして、官民連携で成果をあげている岩手県紫波町の「Web3 タウン表明」を実施。Web3技術を活用した新しいまちづくりの実現を目指します。

地域を超えて多様な人材との結びつきを創り出す

地域活性化には多様な人材が欠かせません。国内のみならず、海外を含めた様々な人材が結集することで、これまでにはなかったアイデアや新しい価値の創出がより期待できます。そのためには、様々なテクノロジーの活用が有効であり、中でも、当町は最先端の「Web3（ウェブスリー）」のデジタル技術を積極的に活用します。国においても、ブロックチェーンやNFT（非代替性トークン）、メタバース（仮想空間）などWeb3の推進のための環境整備も含め、新たなサービスが生まれやすい社会の実現に向けた取組みが加速し始めています。こうしたことから、当町は、デジタル分野における次世代の技術「Web3」を積極的に活用した「Web3タウン」の取組みの推進を表明します。

<プロジェクト例>

1. 地域課題の解決を目指すDAOを設立
2. Web3 技術を活用した新型地域通貨の発行を目指します
3. ふるさと納税の返礼としたデジタルアートのNFT化
4. Web3 技術の推進に取り組む企業の誘致



岩手県紫波町 Web3 タウン表明

多くの自治体があの手この手で取り組んでいる地域の活性化。紫波町も例外ではありません。

地域活性化に欠かせないことの1つに、多様な人材が挙げられます。多様な人材が集まることで化学反応が起こり、これまでになかったアイデアや新しい価値が生まれ、そこから地域経済の盛り上がりや各種サービスの充実等が期待できます。

そこで当町は、国内のみならず、海外も含めた多様な人材にまちづくりへの参加を可能にする、最先端のデジタル技術「Web3」を積極的に活用し、新しい方法での人との対話や価値の創出に取り組むと考えています。

Web3の技術を活用して、国内外どこからでもまちづくりに参加できる「DAO（ダオ）」と呼ばれる分散型自立組織を設立します。DAOを通して、当町のビジョンや取組みに共感し、豊かな地域資源に愛着を持ってくれる多様な人材が地域を超えて結び付き、地域課題の解決や持続可能なまちづくりへの可能性がさらに広がることを期待しています。

デジタル分野における次世代の領域として注目を集める「Web3」。当町は新しい知見を積極的に取り入れ、「Web3タウン」の取組みを推進することを、ここに表明します。

2022年6月10日
紫波町長 熊谷 泉

Web3 タウンで目指すもの（プロジェクト例）

1. 地域課題の解決を目指すDAOを設立
2. Web3 技術を活用した新型地域通貨の発行に向けた活動
3. ふるさと納税の返礼としたデジタルアートのNFT化
4. Web3 技術の推進に取り組む企業の誘致



出典

<https://www.town.shiwa.iwate.jp/soshiki/4/2/13/9609.html>

Web3 × 地方創生事業

**Web3 を活用した、町民参加型（オープンガバメント）の自治体運営手法。
町民参加により自治体の課題が解決され、結果として、歳出、職員稼働の削減を実現。**



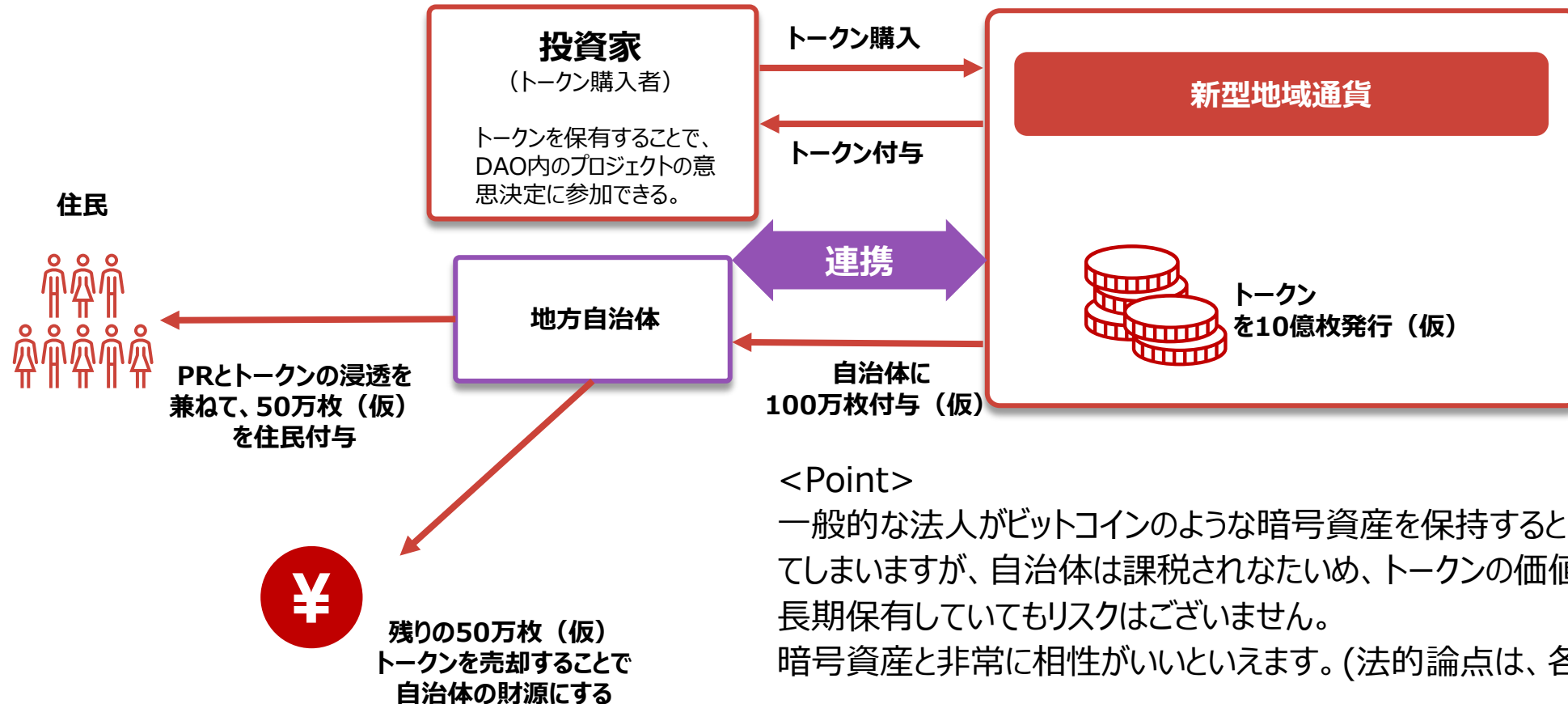
**自主財源を確保しながら、失われかけた地域住民同士のコミュニケーションも
活性化する、最良のソリューション。**

地方自治体における大きな課題は、財源の確保です。
当社では、Web3を活用した新たな財源確保のスキームを提案いたします。

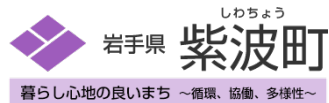
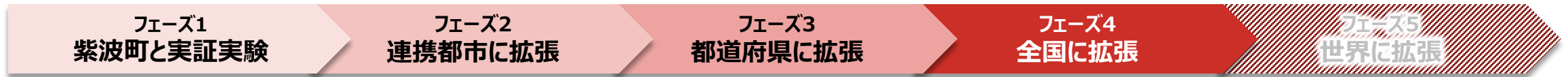
自治体における主な課題と、Web3の活用について

主な課題	<ul style="list-style-type: none">• 人口流出、少子高齢化• 財源の不足• 地域間交流の希薄化 <p>etc...</p>
対応の障壁	<ul style="list-style-type: none">• 課題への対応策があっても十分な財源ができず実行できない• 補助金などの活用も検討されるが、非補助金の費用を捻出できない <p>etc...</p>
Web3の活用	<p>Web3の活用により、上記のような人材不足や財源不足を解消できます。 DAOと呼ばれる分散型組織を構築することで、人材不足を補い、NFTやトークンの活用により、新たな財源を創出することができます。</p> <p>自治体が非課税である点を活かし、Web3の効果を最大限活用します。</p>

本スキームでは、発行体が発行したトークンを**自治体に無償譲渡する**点がポイントとなります。自治体は無償譲渡されたトークンの一部を、PR、普及に利用します。賛同する自治体が増えてトークンの価値が上昇したタイミングで**残っていたトークンを売却することで自主財源**にすることが可能です。



Furusato DAO（仮）は、一つの市町村ではなく、徐々に拡大し、利便性や収益性を高めていきます。



まずはPoC的に官民連携で実績のある紫波町から本プロジェクトを開始します。

フェーズ1を通じて運用のメリットや課題感を洗い出し、それらを踏まえて、連携都市に、対象を拡大します。

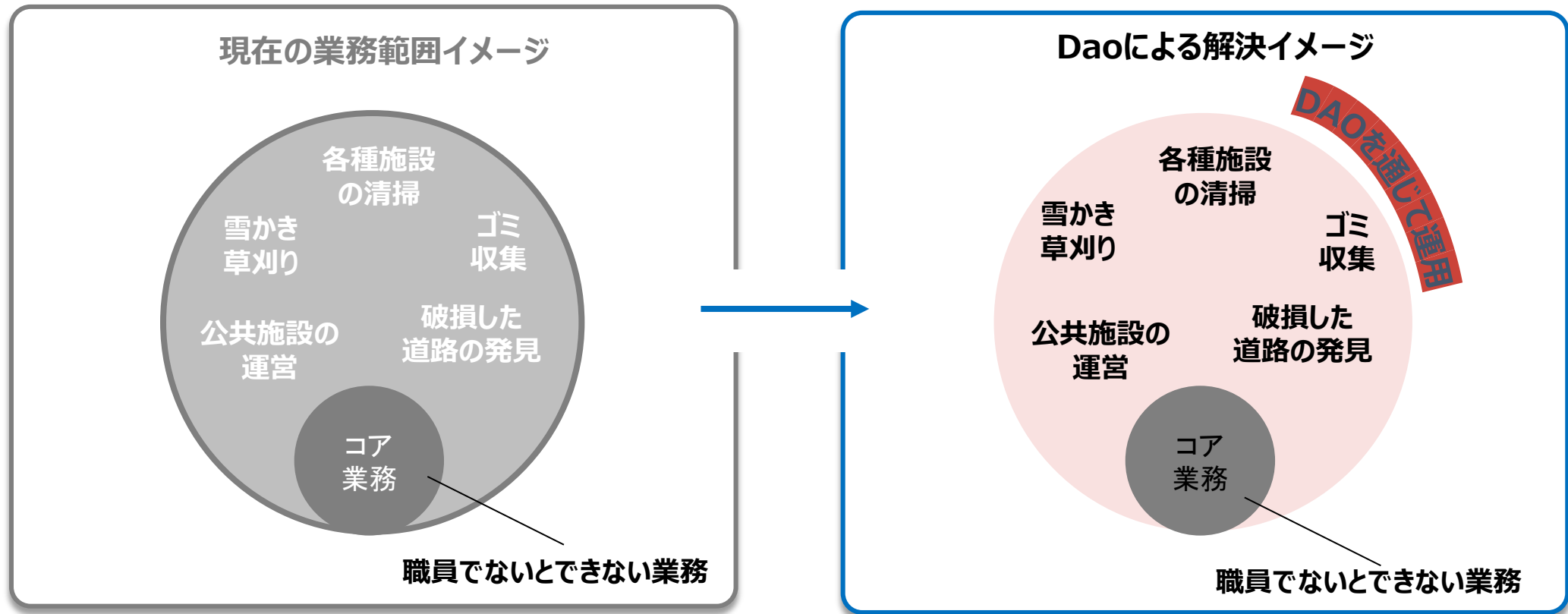
フェーズ3では、都道府県を対象に広げ、プロジェクトの拡張を目指します。

フェーズ4では、紫波町から始まったエリアを超え、全国の市区町村、都道府県までを対象に拡大します。

国内でのスキームが十分に整い、海外を対象にできるようであれば、世界を対象に拡張することも検討しています。

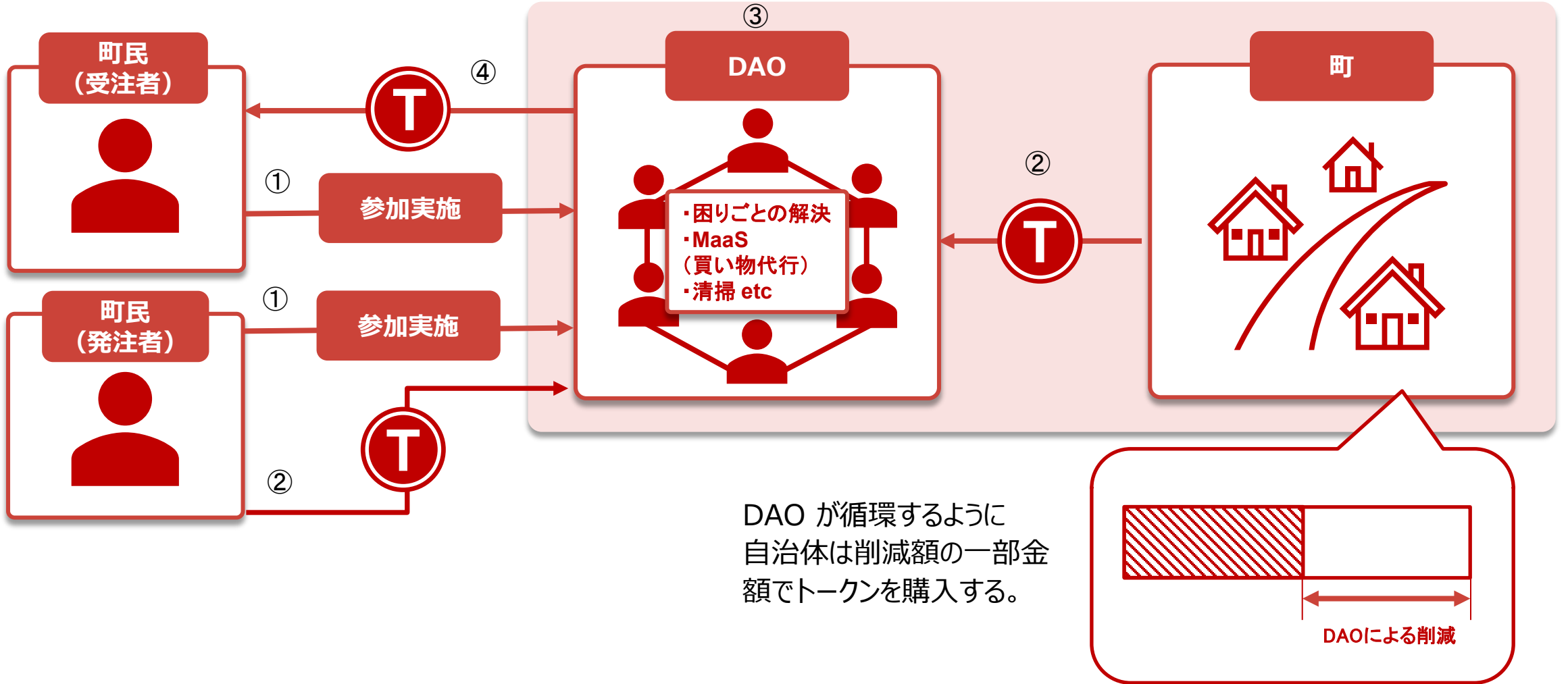
必ずしも自治体職員が実施する必要がない業務については、住民の方々に協力いただき、DAO を通じて運用します。業務の対価として住民にトークンを付与し、自治体職員は、コア業務への集中にすることで、**支出、負担を削減**できます。

課題が解決され、自治体の負担も減り、住民もボランティアではなく対価が得られる、三方良しを実現します。



以下の流れでのサイクル

- ① 住民がDAOに参加する → ② 自治体ないし、住民が買い物や雪かき、清掃などを発注する → ③ DAO内の誰かが受注し対応する → ④ 対価としてトークンが支払いされる



DAOが循環するように自治体は削減額の一部金額でトークンを購入する。

しわ黒豚 × ゲームアイテムNFT

「くりぷ豚レーシングフレンズ」ゲーム内で利用できる「紫波町オリジナルくりぷトン」をNFTの返礼品として提供。

単にNFTだけを返礼としてもニーズが限定されるため、紫波町のブランド豚である「しわ黒豚」の精肉とセットでの返礼品を開発。

ゲームアイテムNFTをきっかけに、これまで紫波町とあまりご縁がなかった層にアプローチし、紫波の特産品を知ってもらうことができる。



© 株式会社GoodLuck3

**2022年10月1日から
絶賛提供中
(数量限定)
寄付金額500万円突破**



Furusato DAO デザインNFT

【Web3 Town Shiwa 事業第2弾！！】

ロゴデザインは、小田中染工房の3代目を務める型染め作家の小田中耕一さん。

(人間国宝 芹沢銈介さんの研究所に在籍し、型染めについて師事。)

「地域を超えて多様な人材との結びつきを創り出す」FurusatoDAOのコンセプトから連想された、黄色や明るい茶色をベースにした色合いで、温かみを感じるデザイン。

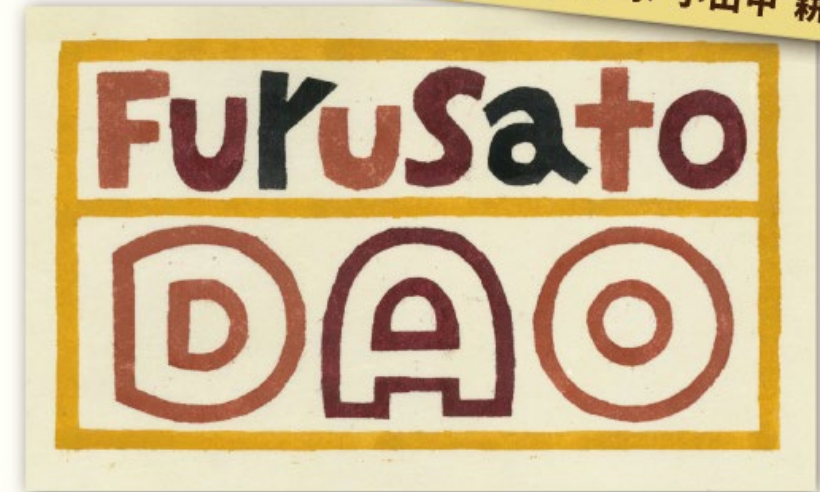
本NFT 保持者には、Discord 上の専用チャンネルへの入室ロールなどの優待をご案内する予定。

Web3 タウンの取り組み、ふるさと納税については、下記を参照ください。

<https://www.town.shiwa.iwate.jp/soshiki/4/2/13/web3townshiwa/10069.html>



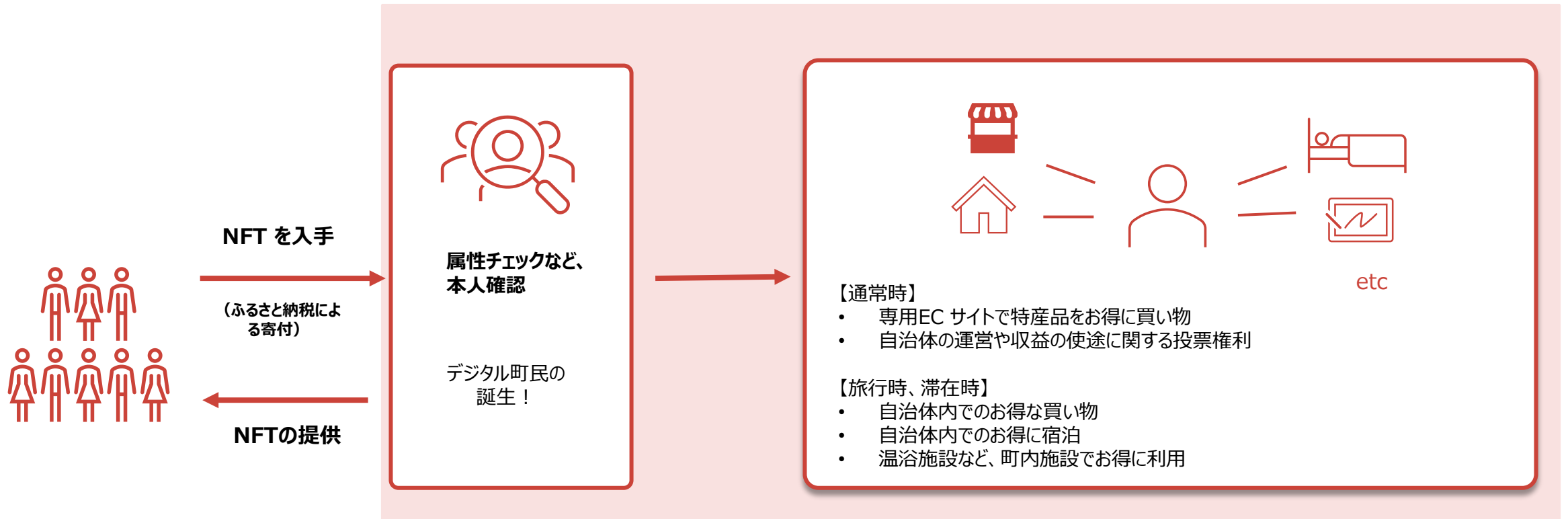
小田中染工房 3代目
型染め作家 小田中 耕一デザイン



**2022年11月4日から
絶賛提供中**

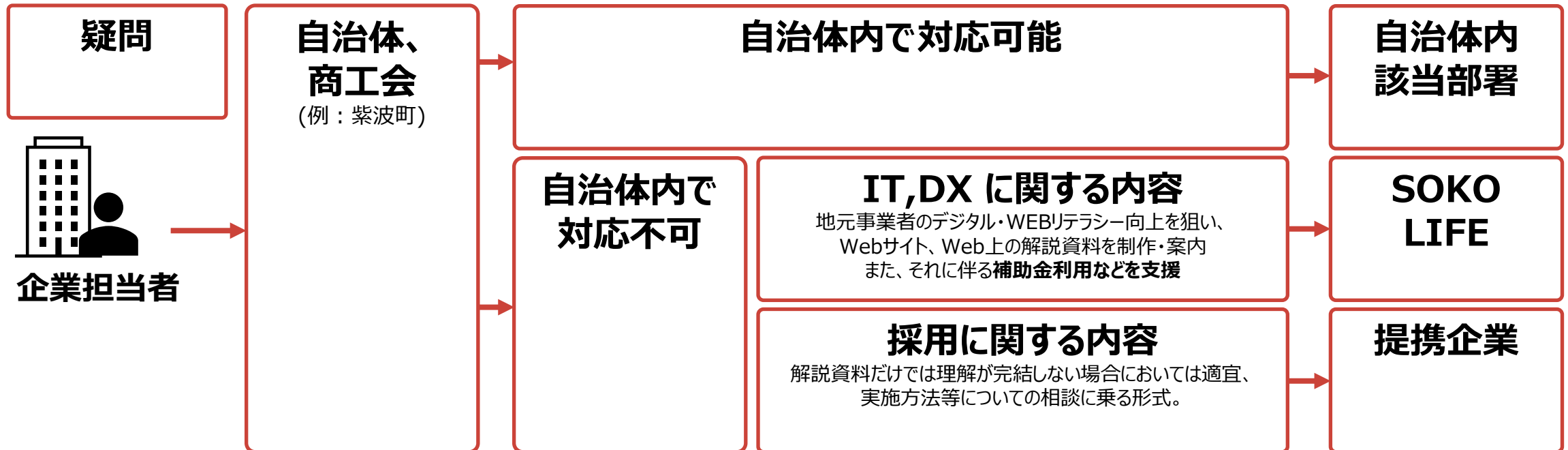
ふるさと納税を通じてNFTを入手することで、デジタル町民となることが可能となります。
デジタル町民となることで、初期段階においては、お得なECサイトへのアクセスなどを検討しており、段階的に、町民としての発信領域を付与していく予定です。

デジタル町民の仕組み



紫波町内の事業者を対象とし、ICT等を活用した採用活動の支援及び相談窓口の設置します。
 それによって、ICTに不慣れな地元事業者のデジタル・WEBリテラシー向上を狙います。
 そして紫波町が推進するSoceity5.0実現に向け、新しいワークスタイル導入に向けた基盤を作り上げます。

サービス概要





SOKO
LIFE TECH

ご清聴ありがとうございました